

第63回上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会

3年ぶりの熱戦を制し4連覇

第63回上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会(上南戦)が、南山大学を主催として7月1日から3日にかけて開催された。上南戦は、1960年の第1回大会以来、毎年開催されている伝統のスポーツ対抗戦。一昨

年のスポーツ対抗戦。一昨

年、昨年とコロナ禍の影響で2年連続の中止となっていたが、今年は3年ぶりの開催となった。

大会初日は開会式が行われ、校歌斉唱や応援団によるエール交換など

のスポーツ対抗戦。一昨

年、昨年とコロナ禍の影響で2年連続の中止となっていたが、今年は3年ぶりの開催となった。

大会初日は開会式が行われ、校歌斉唱や応援団によるエール交換など

のスポーツ対抗戦。一昨

年、昨年とコロナ禍の影響で2年連続の中止となっていたが、今年は3年ぶりの開催となった。

大会初日は開会式が行われ、校歌斉唱や応援団によるエール交換など



戦ウェブサイトに掲載されている。

また、2日には「戦わない上南戦」として、「Johan Meets Expo 2022」と題したイベントも開催された。このイベントは、両大学の文化系の課外活動団体が交流を図る目的で行われた。学生による講演会「大学生だからこそ『今』できる」とや、両大学の所在地である東京・愛知の魅力について語り合っ

上南戦特別賞
▼応援団：猛暑・雷雨にも負けずに、献身的に各部を応援し、本学を総合優勝に導いた。

▼上智大学放送研究会(SBC)：各競技のハイライト映像を撮影・上映し、大会全体を盛り上げた。

上智浴衣デー2022

3年越しの開催で華やぐキャンパス

7月8日、「上智浴衣デー2022」が開催された。大学創立100周年

笹尾さん(左から2人目)ら運営メンバー



大勢の観衆が演奏を楽しんだ



日本文化体験企画は留学生にも好評



年の2013年に記念企画として始まり19年まで回を重ねてきたが、20年、21年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中止。今回は3年ぶりの開催となった。

主催はイベントの企画や運営を行う課外活動団体nexect。留学を体験してもらおうと、学生や教職員などが交流することを通して大学の活性化を目的としている。

当日は天候に恵まれ、前回は参加者数の2倍を超え、約4000人の学生が色とりどりの浴衣姿で参加した。

ホフマン・ホール、図書館内会議室など学内に数カ所の着付け部屋を設け、ジェンダーフリーの更衣室も用意。着付け動画の配信も行われた。

6号館1階では、言語教育研究センターとの共催で、複数の言語で短冊に願い事を書く笹飾りを設置。多くの学生が笑顔で短冊を笹に飾っていた。

ホフマン・ホールの和室では、前日の7日には茶道、8日当日は茶室が、それぞれ日本文化体験として実施された。

1号館前には写真撮影ポイントが設けられ、生まれ変わったばかりの正門を背景に友人と写真を撮り合う姿が見られた。

4日から8日まではメインスタリートをうちわを配布。浴衣デーの周知に一役買った。また、同

留学フェア2022

5日間で延べ約300人が参加



6月27日から7月4日の昼休みに、グローバル教育センター主催イベント「留学フェア」上智の留学プログラムを知ろう」が開催された。

6月27日から7月4日の昼休みに、グローバル教育センター主催イベント「留学フェア」上智の留学プログラムを知ろう」が開催された。

6月27日から7月4日の昼休みに、グローバル教育センター主催イベント「留学フェア」上智の留学プログラムを知ろう」が開催された。

6月27日から7月4日の昼休みに、グローバル教育センター主催イベント「留学フェア」上智の留学プログラムを知ろう」が開催された。

ウクライナ留学生歓迎会

日本での新たな挑戦に期待



7月21日、ウクライナ人留学生を歓迎するセレモニーが開催された。本学は一般社団法人パスウェイズに参画し、8人のウクライナ人留学生を受け入れた。留

学は一般社団法人パスウェイズに参画し、8人のウクライナ人留学生を受け入れた。留

学は一般社団法人パスウェイズに参画し、8人のウクライナ人留学生を受け入れた。留

学は一般社団法人パスウェイズに参画し、8人のウクライナ人留学生を受け入れた。留

1940年生まれ。69歳。年東京大学大学院人文研究科修士課程修了、72年上智大学大学院神学研究所修士課程修了。73年本学文学部講師、79年同助教授、89年同教授、2005年同特別契約教授、09年神学部特別契約教授、史。

著書に『日本倫理思想史研究』(共著、ペリカソ社)、『宗教のころ』(共著、みくに書房)、『多神と一神との邂逅』(共著、平河出版社)など。専門は日本倫理思想史。